(様式第9)

自治医病経第１２４号
平成１９年１０月４日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　学校法人　自治医科大学
理事長　吉田　弘[redacted]

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　　別紙様式第10のとおり
2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　　別紙様式第11のとおり
3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	１１２人

(注)前年度の研修医の実績を記入すること

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法　　別紙様式第12のとおり
5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績　別紙様式第13のとおり
6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績　　別紙様式第13のとおり
7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	612 人	59.7 人	671.7 人	看護業務補助	15 人	診療エックス線技師		0 人
歯科医師	21 人	2.1 人	23.1 人	理学療法士	11 人	臨床	臨床検査技師	109 人
薬剤師	51 人	0 人	47.0 人	作業療法士	6 人		衛生検査技師	0 人
保健師	1 人	0 人	1.0 人	視能訓練士	7 人	検査	その他	3 人
助産師	50 人	0 人	43.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師		0 人
看護師	965 人	29.1 人	994.1 人	臨床工学技士	15 人	医療社会事業従事者		6 人
准看護師	0 人	0 人	0 人	栄養士	0 人	その他の技術員		10.6 人
歯科衛生士	7 人	2.8 人	9.8 人	歯科技工士	1 人	事務職員		80 人
管理栄養士	10 人	0 人	10.0 人	診療放射線技師	59.9 人	その他の職員		8.8 人

(注)1　報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下２位を切り捨て、小数点以下１位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	902 人	12 人	914 人
1日当たり平均外来患者数	2,617 人	129 人	2,746 人
1日当たり平均調剤数	2,462 剤		

(注)1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療提供の実績

１高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・(無)	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・(無)	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・(無)	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・(無)	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・(無)	人
・人工中耳	有・(無)	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	(有)・無	4 人
・性腺機能不全の早期診断法早期診断法	有・(無)	人
・経皮的レーザー椎間板切除術（内視鏡下を含む）	有・(無)	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物Ｐ糖蛋白の測定	有・(無)	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・(無)	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・(無)	人
・進行性筋ジストロフィーのＤＮＡ診断	有・(無)	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・(無)	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ﾍﾙﾆｱに対するﾔｸﾞﾚｰｻﾞｰによる経皮的椎間板減圧術	有・(無)	人
・肺腫瘍のＣＴガイド下気管支鏡検査	有・(無)	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・(無)	人
・筋緊張性ジストロフィーのＤＮＡ診断	有・(無)	人
・ＳＤＩ法による抗がん剤感受性試験	有・(無)	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	(有)・無	3 人
・栄養障害型表皮水泡症のＤＮＡ診断	有・(無)	人
・家族性アミロイドーシスのＤＮＡ診断	有・(無)	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・(無)	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・(無)	人
・抗がん剤感受性試験	有・(無)	人
・子宮頸部前がん病変のＨＰＶ－ＤＮＡ診断	有・(無)	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・(無)	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・(無)	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・(無)	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・(無)	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・(無)	人
・成長障害のＤＮＡ診断	有・(無)	人
・生体部分肺移植術	有・(無)	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・(無)	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・(無)	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・(無)	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・(無)	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・(無)	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	(有)・無	0 人
・ミトコンドリア病のＤＮＡ診断	有・(無)	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と移転の検索	有・(無)	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・(無)	人

高度先進医療の種類（医科）	承　認	取扱い患者数
・神経変性疾患のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	人
・脊髄性筋萎縮症のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有 ・ (無)	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有 ・ (無)	人
・脊髄腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有 ・ (無)	人
・カフェイン併用化学療法	有 ・ (無)	人
・31燐一磁気共鳴ｽﾍﾟｸﾄﾛｽｺﾋﾟｰとｹﾐｶﾙｼﾌﾄ画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有 ・ (無)	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有 ・ (無)	人
・遺伝性コプロポルフィン症のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のＲＮＡ診断	有 ・ (無)	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	(有) ・ 無	11 人
・重症ＢＣＧ副反応症例における遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有 ・ (無)	人
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有 ・ (無)	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有 ・ (無)	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のＤＮＡ診断	有 ・ (無)	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有 ・ (無)	人
・Ｑ熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有 ・ (無)	人
・活性化Ｔリンパ球移入療法	有 ・ (無)	人
・抗がん感受性試験(ＣＤ－ＤＳＴ法)	有 ・ (無)	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有 ・ (無)	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有 ・ (無)	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有 ・ (無)	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有 ・ (無)	人
・骨腫瘍のＣＴ透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有 ・ (無)	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有 ・ (無)	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有 ・ (無)	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有 ・ (無)	人
・頚椎椎間板ﾍﾙﾆｱに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有 ・ (無)	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有 ・ (無)	人
・活性化血小板の検出	有 ・ (無)	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 ・ (無)	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有 ・ (無)	人
・末梢血幹細胞（ＣＤ34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	有 ・ (無)	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有 ・ (無)	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	有・(無)	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・(無)	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・(無)	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管ﾚｰｻﾞｰ焼灼術	有・(無)	人
・自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人
・自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・(無)	人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・(無)	人
・顎顔面補綴	有・(無)	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・(無)	人
・歯周組織再生誘導法	有・(無)	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・(無)	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・(無)	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・(無)	人
・レーザー応用による卯齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・(無)	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・(無)	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・(無)	人
・耳鼻いんこう領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・(無)	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・(無)	人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（ＰＰＨ）	有・(無)	人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・(無)	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・(無)	人
・強度変調放射線治療	有・(無)	人
・胎児心超音波検査	(有)・無	7 人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・(無)	人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・(無)	人
・インプラント義歯	有・(無)	人
・顎顔面補綴	有・(無)	人
・人工中耳	有・(無)	人
・歯周組織再生誘導法	有・(無)	人
・抗がん剤感受性試験	有・(無)	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・(無)	人
・生体部分肺移植術	有・(無)	人
・活性化血小板の検出	有・(無)	人
・末梢血幹細胞による血管再生療法	有・(無)	人

先進医療の種類	承　認	取扱い患者数
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有 ・ ㊟	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有 ・ ㊟	人
・超音波骨折治療法	有 ・ ㊟	人
・眼底三次元画像解析	有 ・ ㊟	人
・ＣＹＰ2Ｃ19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有 ・ ㊟	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有 ・ ㊟	人
・Ｘ線ＣＴ診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有 ・ ㊟	人
・定量的ＣＴを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有 ・ ㊟	人

（注）１　「取り扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

２　高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

３　先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2　特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱い患者数	疾　患　名	取扱い患者数
・ベーチェット病	91 人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	25 人
・多発性硬化症	61 人	・ウェゲナー肉芽腫症	4 人
・重症筋無力症	115 人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	30 人
・全身性エリテマトーデス	373 人	・多系統萎縮症	38 人
・スモン	1 人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	1 人
・再生不良性貧血	67 人	・膿疱性乾癬	6 人
・サルコイドーシス	159 人	・広範脊柱管狭窄症	21 人
・筋萎縮性側索硬化症	46 人	・原発性胆汁性肝硬変	26 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	190 人	・重症急性膵炎	10 人
・特発性血小板減少性紫斑病	149 人	・特発性大腿骨頭壊死症	41 人
・結節性動脈周囲炎	28 人	・混合性結合組織病	58 人
・潰瘍性大腸炎	180 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・大動脈炎症候群	44 人	・特発性間質性肺炎	15 人
・ビュルガー病	30 人	・網膜色素変性症	25 人
・天疱瘡	30 人	・プリオン病	1 人
・脊髄小脳変性症	88 人	・原発性肺高血圧症	5 人
・クローン病	88 人	・神経線維腫症	11 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・悪性関節リウマチ	5 人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	1 人
・パーキンソン病関連疾患	233 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	3 人
・アミロイドーシス	5 人	・ﾗｲｿｿﾞｰﾑ病(ﾌｧﾌﾞﾘｰ「Fabry」病)含む	2 人
・後縦靭帯骨化症	66 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・ハンチントン病	5 人		

（注）「取り扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月平均4回	
剖　検　の　状　況	剖検症例数 65 例	剖検率 10.4 %

（様式第１１）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

１　研究費補助金等の実績［平成１８年４月～平成１９年３月まで］

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
好中球アポトーシスに及ぼすマクロライド抗菌薬の影響ー気道上皮細胞からの好中球survival enhancing factor産生抑制効果のin vivoモデルにおける妥当性	山沢英明	内科学講座　呼吸器内科学部門	600,000	(補)委 文部科学省
びまん性肺疾患に関する調査研究	杉山幸比古	内学講座　呼吸器内科学部門	800,000	(補)委 厚生労働省
慢性閉塞性肺疾患に対する漢方治療有用性の評価	杉山幸比古	内学講座　呼吸器内科学部門	800,000	(補)委 厚生労働省
特発性肺線維症の予後改善を目指したｻｲｸﾛｽﾎﾟﾘﾝ+ｽﾃﾛｲﾄﾞ療法ならびにNｱｾﾁﾙｼｽﾃｲﾝ吸入療法に関する臨床研究	杉山幸比古	内学講座　呼吸器内科学部門	1,000,000	(補)委 厚生労働省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計4

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
自己免疫疾患に関する調査研究	簑田清次	アレルギー膠原病学部門	1,300,000円	(補) 厚生労働科学研究費補助金 委
骨髄幹細胞移植による難治性血管炎への血管再生医療に関する多施設共同研究	簑田清次	アレルギー膠原病学部門	2,600,000円	(補) 厚生労働科学研究費補助金 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計2

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
腫瘍微小循環観察法の確立と腫瘍微小循環を介した癌治療法の開発	蘇原泰則	呼吸器外科	１００万円	(補)委 文部科学省
白血球一内皮相互反応の麻酔による外科治療低侵襲化	佐藤幸夫	呼吸器外科	１２０万円	(補)委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計２

（注）１ 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
２ 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
３ 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
人工心膜シートまどの被覆による左室容量負荷疾患における左室の拡張防止効果	三澤吉雄	心臓血管外科	５０万円	(補) 委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計１

（注）１ 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
２ 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
３ 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
腸上皮化生の発生とその制御に関する研究	菅野　健太郎	消化器内科学	8100000	(補)委 文部科学省
ヒト小腸の細菌叢と病態における変化	菅野　健太郎	消化器内科学	1700000	(補)委 文部科学省
小腸粘膜上皮細胞の分化誘導における転写因子Math1とCdx2の関係	武藤　弘行	消化器内科学	1500000	(補)委 文部科学省
原発性胆汁性肝硬変における自己反応性T細胞を制御する新たな治療法の開発	喜多　宏人	消化器内科学	1600000	(補)委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計4

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
厚生労働科学研究補助金　難治性疾患克服研究事業　脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	中間季雄	リハビリ（整形外科）	800,000	(補) 委　厚生労働省
厚生労働科学研究補助金　長寿科学総合研究事業　高齢者の運動機能低下評価法と回復運動療法開発研究	中間季雄	リハビリ（整形外科）	2,000,000	補 (委)　日本整形外科学会より委託研究
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計2

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	星野雄一 （分担研究者）	整形外科	80万円	(補) 委　厚生労働科学研究費
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計1

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
自閉性障害における遺伝子発現プロファイリングによる共通分子機構の解析	桃井　真里子	小児科学	5,600,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）
新生児・乳幼児における細菌性スーパー抗原による感染症の免疫学的病態解析	高橋　尚人	小児科学	1,100,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C
エピジェネティクス機構の解析を中心とした自閉性障害の病因遺伝子解明	山形　崇倫	小児科学	1,200,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C
自閉症の発症遺伝子と予後に寄与する心理社会的要因に関する研究	塩川　宏郷	小児科学	600,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C
自閉症障害における病因遺伝子の同定（7q領域を中心に）	清水　順	小児科学	1,100,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
Leigh症候群リンパ球における細胞学的特性の検討	中島　尚未	小児科学	1,500,000	(補)委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究B
発達障害の疾患感受性遺伝子の同定と生物学的指標の解析に関する研究	桃井　真里子	小児科学	3,000,000	(補)委 文部科学省 大学院整備重点化経費ー研究科特別経費
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計7

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
食道癌根治手術後におけるHRVの解析	布宮　伸，和田政彦	集中治療医学部門	80万円	(補)委　厚生労働省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計1

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
小児難治性固形腫瘍に対する抗癌剤封入生分解性ナノスフィアの開発と抗腫瘍効果の研究	横森欣司	小児外科	90万円	(補) 委 文部科学省研究費
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計 1

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
皮膚悪性腫瘍に対する新規サイトカイン療法の探索研究	佐藤篤子	皮膚科学	140万円	(補)・委　文部科学省化学研究費
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委
				補・委

計1

(注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
統合失調症における認知機能障害改善のための心理社会的治療法の開発と作用機序の解明	岩田和彦	精神医学	1,000,000	(補)委 文部科学省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計1

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
ヒト末梢血中リンパ球を用いたトキシコゲノミクス基盤研究	藤村　昭夫	薬理学講座 臨床薬理学部門	24,050,000	㊟委 厚生労働省
ナノテクノロジによる機能的・構造的生体代替デバイスの開発	藤村　昭夫	薬理学講座 臨床薬理学部門	3,000,000	㊟委 厚生労働省
透析療法の質の向上をもたらすバイオ人工腎の開発	藤村　昭夫	薬理学講座 臨床薬理学部門	900,000	㊟委 文部科学省
アンジオテンシン変換酵素阻害薬を用いた癌治療の試み	大森　正規	薬理学講座 臨床薬理学部門	3,000,000	㊟委 文部科学省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計4

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
緑内障眼と正常眼における網膜及び脈絡膜血管の各種薬理刺激反応性の系統学的研究	国松志保	眼科学	1,000,000	㊟ 委 文部科学省
後発白内障予防法の開発	茨木信博	眼科学	2,836,800	㊟ 委 日本私立学校振興・共済事業団
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計2

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
根治切除不能な頭頸部がんに対するS-1+CDDPを同時併用する化学放射線療法の第Ⅱ相試験	藤井　博文	臨床腫瘍部	150万円	(補)委 厚生労働省
画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんのClinical Stagingの確立と治療法選択に関する研究	長瀬　通隆	臨床腫瘍部	100万円	(補)委 厚生労働省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計2

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
厚生労働科学研究費補助金創薬基盤推進研究事業「パーキンソン病遺伝子治療臨床研究における安全性評価とpositron emission tomography	中野今治	神経内科	55,250万円	(補)委 厚生労働省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「神経変性疾患に関する研究」	中野今治	神経内科	120万円	(補)委 厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「筋萎縮性側索硬化症の画期的診断・治療法に関する研究」	中野今治	神経内科	180万円	(補)委 厚生労働省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「特定疾患患者の自立支援体制の確立に関する研究」	中野今治	神経内科	70万円	(補)委 厚生労働省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究」	中野今治	神経内科	70万円	(補)委 厚生労働省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「スモンに関する調査研究」	中野今治	神経内科	60万円	(補)委 厚生労働省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「正常圧水頭症と関連疾患の病因・病態と治療に関する研究」	中野今治	神経内科	60万円	(補)委 厚生労働省
科学技術振興調整費「科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進　生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発」	村松慎一	神経内科	259.7万円	(補)委 厚生労働省
基盤研究（C）「誘導的発現調節アデノ随伴ウィルスベクターを使用した線条体機能の解析」	村松慎一	神経内科	170万円	(補)委 文部科学省
厚生科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「運動失調症に関する研究」	瀧山嘉久	神経内科	450万円	(補)委 厚生労働省
基盤研究（C） Spastinの機能解析と治療戦略	瀧山嘉久	神経内科	180万円	(補)委 厚生労働省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計11

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　　[平成18年4月～平成19年3月まで]

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
電顕組織化学による雄性生殖細胞の分化様式の検討	松原　茂樹	産科婦人科学	900,000	(補)委 文部省科学研究補助金 基盤研究（c）
アデノ随伴ウィルスベクターを用いた卵巣癌腹膜播種を標的とした分子標的・遺伝子治療	大和田倫孝	産科婦人科学	800,000	(補)委 文部省科学研究補助金 基盤研究（c）
血清PlGFを含む早発型妊娠高血圧腎症発症に関与するリスク因子の前向き研究	大口　昭英	産科婦人科学	1,800,000	(補)委 文部省科学研究補助金 基盤研究（c）
子宮内膜症の発生機序の解明と分子標的治療の開発	藤原　寛行	産科婦人科学	1,600,000	(補)委 文部省科学研究補助金 基盤研究（c）
難治性婦人科腫瘍に対する遺伝子治療の基礎的研究	竹井　裕二	産科婦人科学	1,300,000	(補)委 文部省科学研究補助金 若手研究（B）
リン酸化を介した哺乳動物精子capacitationの調節メカニズムの解明	鈴木達也	産科婦人科学	900,000	(補)委 文部省科学研究補助金 若手研究（B）
sFlt-1発現アデノウィルスベクターによる妊娠高血圧腎症マウスへのPlGF投与効果の検討	鈴木寛正	産科婦人科学	1,500,000	(補)委 文部省科学研究補助金 若手研究（B）
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計7

(注) 1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
アデノ随伴ウイルスベクターの開発とそのがん治療への応用	小澤敬也	血液学部門	13,400千円	補 委 文部科学省科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業：特発性造血障害に関する調査研究	小澤敬也	血液学部門	65,000千円	(補) 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ヒトゲノム・再生医療等研究事業：アデノ随伴ウイルス（AAV）を利用した遺伝子治療法の開発研究	小澤敬也	血液学部門	49,725千円	(補) 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ヒトゲノム・再生医療等研究事業：間葉系幹細胞を利用した造血幹細胞移植技術の高度化・安全性向上に関する研究	小澤敬也	血液学部門	20,597千円	(補) 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ﾋﾄｹﾞﾉﾑ・再生医療等研究事業：ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病遺伝子治療臨床研究における安全性評価とpositron emission tomography（PET）による有効性の評価（代表：中野今治）、分担：前臨床研究のためのAAVベクターの作製	小澤敬也	血液学部門	5,000千円	(補) 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業：血友病の治療とその合併症の克服に関する研究（代表：坂田洋一）、分担：AAVベクターによる血友病遺伝子治療の基礎実験	小澤敬也	血液学部門	12,000千円	(補) 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
遺伝性筋疾患に対する分子治療の基盤研究（代表：武田伸一）：分担：新規血清型由来のAAVベクターを用いた骨格筋への遺伝子導入法ならびにその作製法・精製法に関する検討	小澤敬也	血液学部門	2,500千円	補 (委) 厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費
保健医療分野における基礎研究推進事業：ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ遺伝子を用いた家族性・孤発性ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病に対する遺伝子治療（代表：水野義邦）：分担：AAVﾍﾞｸﾀｰを用いた神経系遺伝子治療に関する調査研究と臨床研究実施計画書の作成	小澤敬也	血液学部門	4,000千円	補 (委) 独立行政法人医薬基盤研究所独立行政法人
若手B：GVHD, GVLにおけるIL-21の役割	尾崎勝俊	血液学部門	1,900千円	(補) 委 文部科学省科学研究費補助金
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計9

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
虚血てんかん性神経細胞死における Ca2+代謝異常の細胞生理学的研究	小黒恵司	脳神経外科	1,300,000	(補) 委　文部科学省
光トポによる失語症回復過程を支える脳内機序の解明	渡辺英寿	脳神経外科	5,600,000	補 (委)　文部科学省
てんかんに対する内科・外科的治療に関する総合的研究	渡辺英寿	脳神経外科	700,000	(補) 委　厚生労働省
パーキンソン病遺伝子治療臨床研究における安全性評価とpositron emission tomography(PET)による有効性の評価	加藤正哉	脳神経外科	5,000,000	(補) 委　厚生労働省
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計4

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
Japan Morning Surge-Total Organ Protection：JMS-TOP 研究 治療中早朝高血圧患者に対するアンジオテンシン受容体拮抗薬を用いた早朝血	苅尾　七臣	循環器内科	15万円	(補)委 日本動脈硬化予防研究基金
24時間血圧を用いた高血圧臨床研究	苅尾　七臣	循環器内科	50万円	補 (委) ニュー・ハイパーテンション・クラブ研究助成
高齢者高血圧コホート研究Sub Study「AI測定の追加調査」	苅尾　七臣	循環器内科	80万円	(補)委 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計3

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績　　［平成18年4月～平成19年3月まで］

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託先
膵癌に対する抗癌薬感受性診断用チップの作成	佐田尚宏	消化器外科	1,000,000	(補)委 文部省科学研究費補助金
hMLH1メチル化陽性大腸癌高危険群早期拾い上げ診断マーカーの開発に向けて	宮倉安幸	消化器外科	700,000	(補)委 文部省科学研究費補助金
肝内結石症調査に関する調査研究班 跡見裕　班	永井秀雄	消化器外科	500,000	(補)委 厚生労働省　特定疾患対策研究事業
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発に関する調査研究班	永井秀雄	消化器外科	2,000,000	(補)委 厚生労働省　第3次対がん総合戦略研究事業
切除不能膵がんに対する治療法の確立に関する研究	永井秀雄	消化器外科	500,000	(補)委 厚生労働省　がん臨床研究事業
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計5

（注）1 国、地方公共団体または公益法人からの補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日呼吸会誌 44(4):319-324	肺動静脈原発の線維肉腫の１例	大門皇寿	内科学講座 呼吸器内科学部門
気管支学28(4):278-283	血液疾患に合併した胸部異常陰影に対する気管支鏡検査の有用性	中山雅之	内科学講座 呼吸器内科学部門
日呼吸会誌 44(12):993-996	HLA-B54陽性の関節リウマチ・珪肺症に肺癌を合併した１例	石井義和	内科学講座 呼吸器内科学部門
日呼吸会誌 45(1):8-12	慢性腎不全に合併した肺癌症例の検討	辻田章博	内科学講座 呼吸器内科学部門
日呼吸会誌 45(3):272-276	早老症に合併したと考えられる若年者肺癌の１例	川上　正敬	内科学講座 呼吸器内科学部門
			計５

（注）１　当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２　「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Arthritis Rheum 54(2): 675-678	Association of IgG Anti-NR2 glutamate receptor antibodies in cerebrospinal fluid with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus	吉尾　卓	アレルギー膠原病学部門
Ann Rheum Dis 65(2): 253-256	Raised monocyte chemotactic protein 1 (MCP-1)/CCL2 in cerebrospinal fluid of patients with neuropsychiatric lupus	吉尾　卓	アレルギー膠原病学部門
Rheumatol 45(2): 232-234	IP-10/MCP-1 ratio in CSF is an useful diagnostic maker of neuropsychiatric lupus patients	吉尾　卓	アレルギー膠原病学部門
Arthritis Rheum 54(2): 579-586	Apoptosis of rheumatoid synovial cells by statins through the blocking of protein geranylgeranylation: a potential therapeutic approach to rheumatoid arthritis	長嶋　孝夫	アレルギー膠原病学部門
Int Immunol 18(4): 573-580	Anti-HSP auto-antibodies enhance HSP-induced pro-inflammatory cytokine production in human monocytic cells via Toll-like receptors	簑田　清次	アレルギー膠原病学部門
Ann Rheum Dis 65(9): 1257-1259	Soluble fractalkine in the cerebrospinal fluid of patients with neuropsychiatric lupus	吉尾　卓	アレルギー膠原病学部門
Arthritis Rheum 54(5): 1629-1637	Mouse monoclonal anti-human thrombomodulin antibodies bind to and activate endothelial cells through NF-κB activation in vitro	奈良　浩之	アレルギー膠原病学部門
Clin Immunol 120: 247-259	CD52 is a novel costimulatory molecule for induction of CD4 regulatory T cells	青木　葉子	アレルギー膠原病学部門
Mod Rheumatol 16:330-331	Semiquantitative assessment of the intestinal motility in chronic intestinal pseudo-obstruction in systemic sclerosis and mixed connective tissue disease by Sitzmarks capsule	長嶋　孝夫	アレルギー膠原病学部門
J Clin Rheumatol 12(5): 259-260	Limited Wegener's granulomatosis manifested by abducens nerve palsy resulting from pachymeningitis	上村　健	アレルギー膠原病学部門
J Invest Allergol Clin Immunol 16(6):388-390	Repeated massive tongue swelling due to the combined use of estramustine phosphate and angiotensin-converting enzyme inhibitor	釜田　康行	アレルギー膠原病学部門
日本腎臓学会誌 48(4) : 345-353	高齢発症ループス腎炎の臨床学的検討	簑田　清次	アレルギー膠原病学部門
臨床リウマチ 18(4):332-336	メトトレキサートが腎機能悪化を７年間抑制したと考えられる関節リウマチ誘発腎アミロイドーシス	岩本雅弘	アレルギー膠原病学部門
臨床神経学 46(10):687-691	筋ジストロフィー患者では高率に抗β1アドレナリン受容体抗体が存在する	吉尾　卓	アレルギー膠原病学部門

計１４

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成18年4月～平成19年3月まで]

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
実力医の履歴書:481-481	肺癌. 外科系Ⅰ.	蘇原泰則	呼吸器外科
呼吸器NEW & VIEWS 27:17-22	肺癌治療法の多彩な選択肢.	蘇原泰則	呼吸器外科
Ann Thorac Surg 81(5):1946-1946	Preoperative use of steroids in patients with myasthenia gravis.	遠藤俊輔	呼吸器外科
Surgery Today 36(6):574-576	Plastron-trapdoor technique for direct-vision sternal re-entry.	遠藤俊輔	呼吸器外科
Surgery Today 36(6):499-503	Predictors of postoperative complications after radical resection for pulmonary aspergillosis.	遠藤俊輔	呼吸器外科
Int Cardio-Thorac Surg 5: 109-110	Contralateral pulmonary edema following surgical repair of a ruptured hemidiaphragm.	遠藤俊輔	呼吸器外科
胸部外科 59(12):1061-1061	まい・てくにっく；低侵襲開胸法としての腋窩前方開胸.	遠藤俊輔	呼吸器外科
ばんぶう Clinic Bamboo 301(7):61	プライマリーケアへの道「呼吸器科」慢性の湿性咳嗽・発熱, 右胸痛の持続.	遠藤俊輔	呼吸器外科
ばんぶう Clinic Bamboo 301(8):61	プライマリーケアへの道「呼吸器科」突然の喀血.	遠藤俊輔	呼吸器外科
胸部外科60(3):181-182	討論2. 自然気胸の外科手術.	遠藤俊輔	呼吸器外科
別冊・医学のあゆみ；呼吸器疾患 ver.5-state of arts373-375	胸膜の疾患；気胸	遠藤俊輔	呼吸器外科
胸部外科60(1):45-48	悪性胸膜中皮腫に対する広範囲胸壁・横隔膜・心嚢合併切除を伴う胸膜肺摘除術.	佐藤幸夫	呼吸器外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：35-38	2呼吸器；肺がん術後ドレナージ.	手塚康裕	呼吸器外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：39-41	2呼吸器；胸腔ドレナージ：気胸, 胸水.	手塚康裕	呼吸器外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：42-45	2呼吸器；気管内チューブ.	手塚康裕	呼吸器外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：46-49	2呼吸器；気管切開チューブ.	手塚康裕	呼吸器外科

計16

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Asian Cardiovasc Thorac Ann 14(5):e86-e87	Thoracoscopic findings of a small posterior mediastinal parathyroid adenoma.	田口昌延	呼吸器外科
気管支学28(4):300-305	Mycobacterium szulgai感染後に合併した肺アスペルギルス症の1例.	宮崎邦夫	呼吸器外科

計2

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg 82(1):381-382	Deep sternal wound infection after cardiac surgery.	三澤吉雄	心臓血管外科
Ann Thorac Surg 82(1):381-381	Cardiac papillary fibroelastoma.	三澤吉雄	心臓血管外科
心臓38(5):472-472	鈴木論文に対するEditorial comment.	三澤吉雄	心臓血管外科
胸部外科60(2):95-96	討論2.大動脈弁狭窄に対する弁置換術後の心機能.	三澤吉雄	心臓血管外科
J Cardiothorac Surg 2:8	Clinical experience with the bicarbon heart valve prosthesis.	三澤吉雄	心臓血管外科
新臨床外科学 2006,923-935.	10.心臓・大血管；先天奇形（中隔欠損を主とする）.	河田政明	心臓血管外科
小児心臓外科の要点と盲点2006,194-201	[9]単心室1.外科解剖と手術適応，手術成績と遠隔成績.	河田政明	心臓血管外科
臨床麻酔 30(12):1819-1827	心臓の発生と先天性心疾患：臨床麻酔との関連.	河田政明	心臓血管外科
日小循誌23(1):39-40	センターでの左心底形成疾患群に対する治療方針について；左心低形成症候群に対する新たなアプローチ：両側肺動脈絞扼術とhybrid治療.	河田政明	心臓血管外科
自治医大医学部紀要 29:229-232	止血用クリップを用いた腋窩動脈送血用側枝人工血管の閉鎖手技.	齊藤力	心臓血管外科
胸部外科59(5):407-409	大動脈狭窄パッチ血管形成術後に発症した仮性動脈瘤の1例.	上西祐一朗	心臓血管外科
胸部外科59(4):319-323	大動脈弁置換術後のpatient-prosthesis mismatch －有効弁口面積指数の許容下限－.	上西祐一朗	心臓血管外科
自治医大医学部紀要 29:49-53	シベレスタットナトリウム水和物による胸部大動脈緊急手術後集中治療期間の短縮効果.	上西祐一朗	心臓血管外科
Nursing Mook見てわかるドレーン＆チューブ管理：49-51	3循環器；心嚢ドレナージ.	上西祐一朗	心臓血管外科
Nursing Mook見てわかるドレーン＆チューブ管理：52-53	3循環器；縦隔ドレナージ.	上西祐一朗	心臓血管外科
Nursing Mook見てわかるドレーン＆チューブ管理：54-56	3循環器；術後(開心術，胸部大動脈手術)ドレナージ. 上西祐一朗	上西祐一朗	心臓血管外科

計16

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：57-59	3循環器；スワン・ガンツ(Swan-Ganz)カテーテル.	上西祐一朗	心臓血管外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：60-61	3循環器；大動脈内バルンパンピング(IABP).	上西祐一朗	心臓血管外科
心臓38(6):646-649	婦人科悪性腫瘍に合併した急性肺動脈血栓塞栓症に対し経皮的心肺補助装置下に経皮的吸引式血栓適除を行い救命した1例.	坂野康人	心臓血管外科
自治医大医学部紀要29:55-59	胸部大動脈手術周術期における心房性不整脈の発生要因について.	坂野康人	心臓血管外科
日血外会誌15(4):441-444	異なる血行再建を行った感染性腹部大動脈瘤の2治験例.	相澤啓	心臓血管外科
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 54(9):413-415	Simultaneously performed mitral valve replacement and Hartmann's operation for infectious endocarditis from Streptococcus bovis and rectal cancer.	相澤啓	心臓血管外科
胸部外科59(12):1103-1105	大動脈弁置換術後遠隔期に上行大動脈瘤をきたした大動脈炎症候群の1例.	田口昌延	心臓血管外科
Asian Cardiovasc Thorac Ann 14(5):e86-e87	Thoracoscopic findings of a small posterior mediastinal parathyroid adenoma.	田口昌延	心臓血管外科

計8

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterol. Endosc.	ダブルバルーン式小腸内視鏡の現況	喜多　宏人	消化器内科学
Gastroenterological Endoscopy	Molecular abnormalities in the precancerous conditions of the stomach.	K. Sugano	消化器内科学
J. Cellular Biochemistry	Existence of autocrine loop between interleukin-6 and tranforming growth factor-β1 in activated rat pancreatic stellate cells.	H. Aoki	消化器内科学
Best Practice & Reserch Clinical Gastroenterology	Double-balloon endoscopy for the diagnosis and treatment of small intestine disease.	H. Kita	消化器内科学
J. Gastroenterology	Differencial gene expression between adenoma and normal mucosa in the colon in a microarray analysis.	H. Kita	消化器内科学
Differentiation	The intestine-specific homeobox gene Cdx2 induces expression of the basic helix-loop-helix transcription factor Math1.	H. Mutoh	消化器内科学
Gut	Helicobacter pylori eradication induces marked increase in H+/K+-adenosine triphosphatase expression without altering parietal cell number in human gastric mucosa.	H. Osawa	消化器内科学
J. Gastroenterology	Changes in plasma ghrelin levels, gastric ghrelin production, and body weight after Helicobacter pylori cure.	H. Osawa	消化器内科学
Biochem. Biophys. Res. Comm.	Sonic hedgehog stimulates the proliferation of rat gastric mucosal cells through ERK activation by elevating intracellular calcium concentration.	H. Osawa	消化器内科学
Hepatology Research	A case of hepatic pseudolymphoma observed without surgical intervention.	H. Ota	消化器内科学
Biochem. Biophys. Res, Comm.	Angiotensin II promotes the proliferation of activated pancreatic stellate cells by Smad7 induction through a protein kinase C pathway.	K. Hama	消化器内科学
Gastrointest. Endosc. Clin. N. Am.	Double-balloon Endoscopy:From concept to reality.	H. Yamamoto	消化器内科学
J. Gastroenterol. Hepatol.	Metalic stent for an obstructing jejunal cancer.	Y. Hayashi	消化器内科学

計１３

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
厚生労働科学研究補助金　難治性疾患克服研究事業　　脊柱靭帯骨化症に関する調査研究　　平成18	脊柱靭帯の特性に関する研究　　ーラット黄色靭帯における靭帯骨化の場としての検討ー	中間季雄	リハビリ（整形外科）
厚生労働科学研究補助金　長寿科学総合研究事業　　高齢者の運動機能低下評価法と回復運動療法	体幹筋の筋活動と筋血流動態に関する研究ー高齢者の脊椎後弯に伴う腰背部痛の発生機序ー	中間季雄	リハビリ（整形外科）
Medical Molecular Morphology 39(4):198-202,2006	An ultrastructural study on the ligamentum flavum of the cervical spine in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.	Sueo Nakama	リハビリ（整形外科）

計３

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Med Mol Morphol	An ultrastural study on the ligamentum flavum of the cervical spine in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament	Sueo Nakama	整形外科
脊椎脊髄　特集　黄色靭帯に生じる各種病変	黄色靭帯石炭化症	山室健一	整形外科
厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業　脊柱靭帯骨化症に関する	脊柱靭帯の特性に関する研究　ーラット黄色靭帯における靭帯骨化の場としての検討ー	中間季雄	整形外科

計３

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Jichii Medical School Journal 28 2006 71-76	Rapid progression of congenital heart block with negative maternal anti-Ro/SSA antibody.	Mari Saito	小児科学
日本周産期・新生児医学会雑誌 42　2006 659-663	胎児期発症心房粗動の新生児4例	小宮山　真美	小児科学
小児科臨床 59　2006-9 155-160	口唇口蓋裂，小陰茎，精神運動発達遅滞を呈した下垂体前葉欠損の1例	小宮山　真美	小児科学
小児科臨床 59　2006-10 121-126	乳幼児の気管支喘息中発作に対する治療の検討	齋藤　貴志	小児科学
小児科臨床 59　2006-11 16-20	画像上胸膜肺芽腫との鑑別が困難であった肺炎球菌性膿胸の1例	松本　静子	小児科学
小児科臨床 59　2006-11 101-109	突発性発疹に伴う脳炎脳症の４例	藤田　ひとみ	小児科学
地域医学 20　2006 368-374	へき地診療所勤務の非救急医としての救急への対応	市川　万邦	小児科学
周産期医学 36　2006 530-531	インフルエンザ桿菌感染症	矢田　ゆかり	小児科学
小児の精神と神経 46（2）　2006 113-120	就学前の健常児にみられる対応困難な行動（challengingbehavior）：出現頻度と養育者ニーズに関する検討	塩川　宏郷	小児科学

計９

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
看護部長通信 4(5):8-25, 2006	患者状況調査システムを活用した看護状況把握のための取り組み－患者の状況の点数化と部署別、勤務帯別格差の明確化－	大柴幸子	医療情報部
臨床外科 61(5):613-620, 2006	［手術のための臨床局所解剖］胆道手術のための臨床局所解剖	佐田尚弘	医療情報部
外科治療 95(4):393-398, 2006	［胆嚢癌はどこまで治せるか］治療の実際　胆摘後胆嚢癌と診断されたときの治療方針	佐田尚弘	医療情報部
胆と膵 27(4):219-222, 2006	［胆膵腫瘍治療成績に関する最新データとその評価］胆管癌　治療成績に関する最新のデータ	佐田尚弘	医療情報部

計4

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
J. Tokyo Wom. Med. Univ 76:114-121, 2006	Effect of citrate on the development of experimental polycystic kidney disease	八木澤　隆	腎臓センター外科部門

計1

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Leukemia & Lymphoma	Development of streptococcus meningitis and Epstein-Barr virus reactivation after non-T-cell-depleted human leukocyte antigen-haploidential peripheral blood stem cell transplantation based on fetomaternal microchimerism.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Cytotherapy	Screening of genes responsible for differentiation of mouse mesenchymal stromal cells by DNA micro-array analysis of C3H10T1/2 and C3H10T1/2-derived cell lines.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Blood	Nitric oxide plays a critical role in suppression of T-cell proliferation by mesenchymal stem cells.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Leukemia & Lymphoma	Pleocytosis after hemopoietic stem cell transplantation.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Leukemia Research	Establishment and characterization of a new erythroblastic leukemia cell line, EEB: phosphatidylglucoside-mediated erythroid differentiation and apoptosis.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Internal Medicine	Bone Marrow metastasis of malignant melanoma.	Kazuo Muroi	無菌治療部
The Journal of Infection	The usefulness of magnetic resonance imaging(MRI) for disseminated trichosporosis of the gastrocnemius muscles.	Kazuo Muroi	無菌治療部

計7

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成18年4月～平成19年3月まで]

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Leukemia & Lymphoma	Development of streptococcus meningitis and Epstein-Barr virus reactivation after non-T-cell-depleted human leukocyte antigen-haploidential peripheral blood stem cell transplantation based on fetomaternal microchimerism.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Cytotherapy	Screening of genes responsible for differentiation of mouse mesenchymal stromal cells by DNA micro-array analysis of C3H10T1/2 and C3H10T1/2-derived cell lines.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Blood	Nitric oxide plays a critical role in suppression of T-cell proliferation by mesenchymal stem cells.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Leukemia & Lymphoma	Pleocytosis after hemopoietic stem cell transplantation.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Leukemia Research	Establishment and characterization of a new erythroblastic leukemia cell line, EEB: phosphatidylglucoside-mediated erythroid differentiation and apoptosis.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Internal Medicine	Bone Marrow metastasis of malignant melanoma.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
The Journal of Infection	The usefulness of magnetic resonance imaging(MRI) for disseminated trichosporosis of the gastrocnemius muscles.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部

計 7

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本耳鼻咽喉科学会会誌　110：13-19, 2007	前方型披裂軟骨脱臼症に対する局所麻酔ファイバースコープ下整復術.	阿部弘一　他	耳鼻咽喉科
頭頸部癌 32(4)：417-422, 2006	P53/P21経路におけるRad9の役割と頭頸部癌への関与.	石川和宏　他	耳鼻咽喉科
血栓と循環 16：6-11, 2007	PAI-1ノックアウトマウスを用いたアレルギー性鼻炎の解析.	瀬嶋尊之　他	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 33：423-428, 2006	Nasal dermoplasty for Japanese hereditary hemorrhagic telangiectasia.	Ichimura, K.	耳鼻咽喉科

計4

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Journal of Pediatric Surgery, 2006, 41, 2066-2068	Pyloromotomy through a sliding umbilical window	横森欣司	小児外科

計1

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
精神経誌 108:556-570	統合失調感情障害中間領域の疾病論的位置づけ	加藤敏　阿部隆明	精神科
栃木精神医 26：39-49	コタール症候群不全型を呈した妄想性うつ病の難治例	笠井麻紀子　小林聡幸　山家邦章	精神科
精神医学史研究 10:35-41	グリージンガーにおける単一精神病論―精神疾患概念の脱構築に向けて	加藤　敏	精神科
フランス哲学・思想研究 11：25-36	現代医学からみるメルロ＝ポンティーの「制度の哲学」	加藤　敏	精神科
病跡誌 71：4-15	病跡学の未来―脳科学との架橋	加藤　敏	精神科
精神経誌 108：217-231	統合失調症における虚偽主題	大塚　公一郎 加藤　敏	精神科
精神経誌 108：694-704	統合失調症初診症例は減少しているか？―大学病院・総合病院精神科外来での初診割合の調査	利谷健治　小林聡幸　大澤卓郎 加藤敏　衛藤進吉	精神科
栃木精神医 26：50-55	抑うつ神経症の治療中にmethylphenidateを濫用した一例	敦賀光嗣　山内芳樹　大澤卓郎 小林聡幸	精神科
日社精医誌 14：242-250	山間部へき地住民におけるPHQ(Patient Health Questionnarie)調査	山家邦章　岡島美朗　加藤敏	精神科
精神経誌 108：1142-1150	夫の死後に疼痛性障害を来した老年期女性の一例	山本和巳　大西康則　阿部隆明 加藤敏	精神科
栃木精神医 26：30-38	一連の喪失体験ののち初老期に発症した強迫性障害の一例―心理的緊張（P. Janet）の概念からみたその治療経過	安田学　小林聡幸　上野直子 加藤敏	精神科
臨床精神病理 27：185-195	うつ病と腰痛―対象喪失と秩序の破綻	吉田勝也　加藤敏	精神科
Psychiat Clin Neurosci 60: 452-457	Long-term clinical course of patients with acute polymorphic psychotic disorder without symptoms of schizophrenia.	Abe, T. Otsuka, K. Kato, S.	精神科
Lepr Rev 77:203-9	Prevalence and characteristics of depression in a Japanese leprosarium from the viewpoints of social stigmas and aging. A preliminary report	Nishida, M.	精神科
J Clin Psychopharmacol 26:673-675	Use of a serotonin 1A receptor agonist to treat restless legs syndrome.	Shioda, K. Nisijima, K. Kato, S.	精神科
Gen Hosp Psychiatry 28:81-83	Electroconvulsive therapy for the treatment of multiple system atrophy with major depression	Shioda, K. Nisijima, K. Kato, S.	精神科

計１６

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成18年4月～平成19年3月まで]

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Biochem Biophys Res Commun 346: 1297-1302, 2006	Profile of rhythmic gene expression in the livers of obese diabetic KK-Ay mice.	Ando H	薬理学講座
J Diabetes Complications 20:367-370, 2006	Erythrocyte sorbitol level as a predictor of the efficacy of epalrestat treatment for diabetic peripheral polyneuropathy	Ando H	薬理学講座
Clin Nephrol 65: 75-77, 2006	Changes of neutrophil function during the inter-dialytic period.	Kitoh Y	薬理学講座
Nephron Physiol 102: 51-60, 2006	Effect of trimethoprim-sulfamethoxazole on Na+ and K+ transport in the rabbit cortical collecting duct.	Tsuruoka S	薬理学講座
J Pharmacol Exp Ther 316: 176-181, 2006	Dosing time-dependent effect of temocapril on the mortality of stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	Nozawa M	薬理学講座
Am J Ther 13: 127-133, 2006	Quality of Japanese clinical trials estimated good clinical practice audit findings.	Fujimura A	薬理学講座
IPSJ Transactions on Bioinformatics 47:67-72, 2006	Individual differences in gene expression in primary cultured renal cortex cells derived from Japanese subjects.	Sasaki A	薬理学講座
Eur J Clin Pharmacol 62: 209-215, 2006	Interaction between grapefruit juice and hypnotic drugs: comparison of triazolam and quazepam.	Sugimoto KI	薬理学講座
Clin Pharmacol Ther 79: 389-396, 2006	Severe arrhythmia as a result of the interaction of cetirizine and pilsicainide in a patient with renal insufficiency: first case presentation showing competition for excretion	Tsuruoka S	薬理学講座
Eur J Clin Pharmacol 62: 571-576, 2006	Favorable effect on postgraduate clinical practice of a drug-interaction exercise for undergraduate students.	Tsuruoka S	薬理学講座
Nephrol Dial Tranplant 21: 2762-2767, 2006	Defect in parathyroid hormone-induced luminal calcium absorption in connecting tubules of Klotho mice.	Tsuruoka S	薬理学講座
Am J Physiol Renal Physiol 291: F866-873, 2006	Endothelin and nitric oxide mediate the adaptation of the cortical collecting duct to metabolic acidosis.	Tsuruoka S	薬理学講座
Kidney Int 69: 1780-1785, 2006	Indoxyl sulfate stimulates proliferation of rat vascular smooth muscle cells.	Tsuruoka, S	薬理学講座
Chronobiol Int 23: 905-914, 2006	High-fat feeding exerts minimal effects on rhythmic mRNA expression of clock genes in mouse peripheral tissues.	Yanagihara H	薬理学講座

計14

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成18年4月～平成19年3月まで]

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
J Craniofac Surg. 17: 147-151	Subcranial Facial Bipartition Osteotomy With Glabelar Reverse V-Shaped and Temporal Approaches Instead of the Bicoronal Approach.	Sarukawa, S	形成外科

計 1

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
精神神経学雑誌 108(6):556-570,2006	統合失調感情障害中間領域の疾病論的位置づけ	阿部 隆明	子どもの心の診療科
Psychiatry and Clinical Neurosciences 60(4):452-457	Long-term clinical course of patients with acute polymorphic psychotic disorders without symptoms of schizophrenia	阿部 隆明	子どもの心の診療科

計2

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科	穿孔性眼外傷の統計	石崎こずえ	眼科
眼科臨床医報	MRIで病変部位が確認できた両側one-and-a-half症候群の１例	加藤健	眼科
臨床眼科	腎血管性高血圧症に合併した高血圧性脈絡膜症の１例	横山由晶	眼科
眼科臨床医報	Double elevator palsyにおけるknapp法の手術成績と上直筋の画像所見	牧野伸二	眼科
臨床眼科	視神経乳頭周囲にみられた先天性網膜色素上皮肥大	橋本加奈	眼科
あたらしい眼科	視神経乳頭黒色細胞腫に伴った網膜中心動脈分枝閉塞症の１例	佐々木誠	眼科
臨床眼科	治療薬選択を目的としたラタノプロスト、チモロール・ゲル点眼薬の４週試用の眼圧下降効果	橋本尚子	眼科
眼科臨床医報	高木モシステイン血症が発症に関与したと考えられる網膜中心静脈閉塞症の１例	横山由晶	眼科
眼科手術	漏出濾過胞に対する結膜被覆術の漏出阻止効果	橋本尚子	眼科
眼科	両眼動脈神経麻痺による麻痺性外斜視に対する斜視手術	牧野伸二	眼科

計10

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Am J Physiol, Regulatory Integr Comp Physiol 291:R1638-43, 2006	Long-range negative correlation of glucose dynamics in humans and its breakdown in diabetes mellitus.	Ogata, H., Nagas	内分泌代謝学部門
Metabolism 55:258-262, 2006	Interleukin 6, adiponectin, leptin, and insulin resistance in nonobese Japanese type 2 diabetic patients.	Taniguchi, A., N	内分泌代謝学部門
Diabetes Res Clin Pract 71:164-169, 2006	Interleukin-12p40 gene(IL-12B) polymorphism and Type 1 diabetes mellitus in Japanese: possible role in subjects without having high-risk HLA haplotypes	Yang, J.M., Naga	内分泌代謝学部門

計3

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Neurology 66: 1103-1104, 2006.	Sacsin-relate ataxia (ARSACS): Expanding the genotype upstream from the gigantic exon.	Ouyang Y, 他	神経内科
Journal of the Neurological Sciences 247: 180-186, 2006.	16q-linked autosomal dominant serebellar ataxia: A clinical and genetic study.	Ouyang Y, 他	神経内科
Journal of the Neurological Sciences 255: 87-89, 2007.	An unusual case of a spasticity-lacking phenotype with a novel SACS mutation.	Shimazaki H, 他	神経内科
Ann Int Med, 146(2):147,2007.	Inherent difficulties in the use of sham acupuncture.	Muramatsu S:	神経内科
脳と神経58(1)：63-67, 2006.	周期性失調症の症状で発症したSCA6の1例.	嶋崎晴雄、他	神経内科
臨床神経学46：71、2006.	A型インフルエンザ感染後に急性小脳炎を呈し、MRIにて小脳皮質に沿った病変が認められた成人例.	石川剛久、他	神経内科
神経治療学23（No.1）：57-61, 2006.	免疫グロブリン静注法（IVIg）は機能的伝導ブロックを速やかに解消する一慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー(CIDP)の１例における経時的電気生理学的解析から一.	中村優子、他	神経内科
脳卒中28（6）：318-323, 2006.	脳梗塞を合併したfibromuscular dysplasiaの１剖検例.	石川剛久、他	神経内科
臨床神経学46：491-495、2006.	A型インフルエンザ感染後に急性小脳炎を呈し、MRIにて小脳皮質病変が認められた1成人例.	石川剛久、他	神経内科

計9

（注）１ 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

２ 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　[平成18年4月～平成19年3月まで]

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 2006;29:161-167	Normal and high-normal blood pressures, but not body mass index, are risk factors for the subsequent occurrence of both preeclampsia and gestational hypertension:retrospective cohort study.	Ohkuchi A, Matsubara S, et al.	Obstetrics and Gynecology
J Obstet Gynaecol Res 2006, 32;10-14	Changed in plasma levels of hepatocyte growth factor(HGF)and its associated factors during pregnancy.	Waatanabe T, Matsubara S, et al.	Obstetrics and Gynecology
Eur J Gynaecol Oncol 2006, 27:53-55	c-kit overexpression in neuroendocrine small cell carcinoma of the uterine cervix.	Ohwada M, Suzuki M, et al.	Obstetrics and Gynecology
Mol Cancer Ther 2006, 5:767-775	Prediction of individual response to platinum/paclitaxel combination using novel marker genes in ovarian cancers.	Ohwada M, Suzuki M, et al.	Obstetrics and Gynecology
Hypertension in pregnancy 2006, 25:255-257	Hydrocephalus after intraventricular hemorrhage in eclamptic woman with HELLP syndrome.	Hirashima C, Ohkuchi A, et al.	Obstetrics and Gynecology
Hypertension in pregnancy 2007, 30:151-159	Alterations in placental growth factor levels before and after the onset of preeclampsia are more pronounced in women with early onset severe preeclampsia.	Ohkuchi A, Hirashima C, et al.	Obstetrics and Gynecology
Int J Cancer 2007, 120:278-284	Suppression of ovarian cancer by muscle-mediated expression of soluble VEGFR-1/Flt-1 using adeno-associated virus serotype 1-derived vector.	Takei Y, Mizukami H, et al.	Obstetrics and Gynecology

計9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
CLINICAL NEUROSCIENCE24:763-766	失語の近赤外線光トポグラフィー	渡辺英寿	脳神経外科

計1

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
臨床神経学 46:687-692, 2006.	筋ジストロフィー患者では高率に抗・1アドレナリン受容体抗体が存在する。	松村剛、吉尾卓、	循環器内科
J Cardiol 49:199-203, 2007.	Papillary fibroelastoma in the right ventricular outflow tract.	Tomizawa H, Yama	循環器内科
Hypertension. 2006;47:139-140.	Caution for winter morning surge in blood pressure. A possible link with cardiovascular risk in the elderly.	苅尾　七臣	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 153-159.	The Japan Morning Surge-1 (JMS-1) study: Protocol description	石川　譲治　苅尾	循環器内科
J Clin Hypertens 2006; 8: 404-410.	Impact of blood pressure vs. glycemic factors on target organ damage in patients with type 2 diabetes mellitus	江口　和男　苅尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 581-587.	Morning hypertension: The strongest independent risk factor for stroke in elderly hypertensive penitents.	苅尾　七臣	循環器内科
J Hum Hypertens. 2006;20:801-803	Severe orthostatic hypotension with diabetic autonomic neuropathy successfully treated with a beta1-blocker: a case report.	江口　和男苅尾	循環器内科
Hypertens Res. 2006; 29:297-8.	Low-density lipoprotein subfraction as a new risk factor for silent cerebral infarction in hypertensive patients.	星出　聡苅尾　七	循環器内科
Curr Hypertens Rep. 2006;8:363-367.	The value of home blood pressure monitoring.	苅尾　七臣	循環器内科
Hypertens Res 2006;29, 679-686.	Regular alcohol drinking is a determinant of masked morning hypertension detected by home blood pressure monitoring in medicated hypertensive patients with well-controlled clinic blood pressure: The Jichi Morning Hypertension Research (J-MORE) study	石川　譲治苅尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29, 695-702.	A new technique for detecting sleep apnea-related "midnight" surge of blood pressure.	苅尾　七臣	循環器内科
Am J Hypertens 2006;19:1018.	Exaggerated morning surge in blood pressure in hypertension.	石川　譲治苅尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 937-940.	Focus on Masked Workplace Hypertension: The Next Step for Perfect 24-Hour Blood Pressure Control	苅尾　七臣	循環器内科

計13

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績　［平成18年4月～平成19年3月まで］

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌 67(4):829-833	精神・神経疾患に合併した結腸軸捻転症の4手術例	瑞木　亨	消化器・一般外科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 11(3):277-280	食道・胃静脈瘤手術におけるLigaSure™の使用経験	瑞木　亨	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 69(2):88-89	陥凹内隆起を認めたⅡc型大腸粘膜内癌の1例	濱田　徹	消化器・一般外科
外科 68(6):728-731	放射線性膀胱炎を原因とする膀胱自然破裂による急性腹症の2例	濱田　徹	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 69(2) : 56-57	広範な縦隔気腫をきたした食道異物（有鈎義歯）の1例	平嶋勇希	消化器・一般外科
Therapeutic Research 27(6):1026-1027	クリニカルパスを用いたヘパリンカルシウム投与による術後静脈血栓塞栓予防と出血性合併症について	堀江久永	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 68(2):136-147	内視鏡所見から虫垂原発腫瘍と診断された虫垂粘膜嚢腫の1例	石黒保直	消化器・一般外科
Surgry Today 36(12):1063-1068	Favorable effects of preoperative enteral immunonutrition on a surgical site infection in patients with colorectal cancer without malnutrition	Horie, H.	消化器・一般外科
Digestive Surg. 24(3):169-172	Minimum leakage rate(0.5%) of stapled esophagojejunostomy with sacrifice of a small part of the jejunum after total gastrectomy in 390 consecutive patients	Hyodo, M.	消化器・一般外科
Oncogene 25(1):139-146	Epigenetic silencing of AXIN2 in colorectal carcinoma with microsatellite instability	Koinunma, K.	消化器・一般外科
Surgry Today 36(5):425-435	Preoperative cardiac evaluation : when should the surgeon consult the cardiologist?	Koizumi, M.	消化器・一般外科
Surgical Endoscopy 24(8):13	Local gasdorm formation system(LGDFS) for emergency surgery	Ohdaira, T.	消化器・一般外科
Eur. Surg. Res. 39(1):17-22	Effects of simultaneous hepatic resection on healing of left-sided colonic anastomoses:An experimental study in rats	Sasanuma, H.	消化器・一般外科
Scandinavian Journal of Surgery 95:176-179	Simultaneous colorectal and liver resections for synchronous colorectal metastases	Sasanuma, H.	消化器・一般外科
Surg. Endosc. 20:830-833	Retroperitoneal hand-assisted laparoscopic surgery for endoscopic adrenalectomy	Sata, N.	消化器・一般外科
ANZ J Surg. 76(12):1101-1105	Magnification chromo-colonoscopy	Togashi, K.	消化器・一般外科

計282

（注）1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第12）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的管理方法

管理責任者氏名	病 院 長　　島田　和幸
管理担当者氏名	事務部長　　内田　光俊

			保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方箋、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、 退院した患者に係る入院期間中の診療 経過の要約			病歴室 及び それぞれの部署 にて電子管理	一患者毎の患者受診登録番号による
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿		人事課	
	高度の医療の提供の実績		医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		経営管理課	
	高度の医療の研修の実績		経営管理課	
	閲覧実績		経営管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績		医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		経営管理課及び薬剤部	
	規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	人事課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	人事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保の状況	経営管理課	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入する。

（様式第13）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病 院 長　島田　和幸
閲覧担当者氏名	事務部長　内田　光俊
閲覧の求めに応じる場所	会 議 室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲　覧　者　別	医　師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	59.2 %	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日

算出根拠	A：　紹介患者の数	22,659　人
	B：　他の病院又は診療所に紹介した患者の数	22,355　人
	C：　救急用自動車によって搬入された患者の数	1,303　人
	D：　初診の患者の数	55,920　人

（注）１　「紹介率」欄は、Ａ、Ｂ、Ｃの和をＢとＤの和で除した数に１００を乗じて小数点以下第１位まで記入すること。
２　Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄはそれぞれの延数を記入すること。

（様式第13-2）

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)（４名）・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（３名）・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
・ 所属職員： 専任（４）名 兼任（１０）名 ・ 活動の主な内容： ・医療安全対策の推進（職員研修の企画、運営、情報の収集・提供等） ・医療事故発生時の対応 ・医療安全対策委員会及びリスクマネージャー会議の開催	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ・基本理念 ・医療安全対策委員会、院内組織に関すること ・医療事故報告 ・医療安全確保のための改善方法 ・重大事故発生時の対応	
⑥ 安全管理の体制確保のための委員会の開催状況	年 １２ 回
・ 活動の主な内容： ・インシデント・アクシデントレポートの報告状況 ・事例報告、検討 ・医療安全対策	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 ３０ 回
・ 研修の主な内容： ・中心静脈カテーテル挿入確認研修 ・輸液、シリンジポンプ研修 ・研修医研修	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （(有)・無）	
・ その他の改善のための方策の主な内容： ・事例検討会 ・院内の巡視 ・リスクマネージャー会議や医療安全対策講演会などでの事例報告、対応策等の周知	